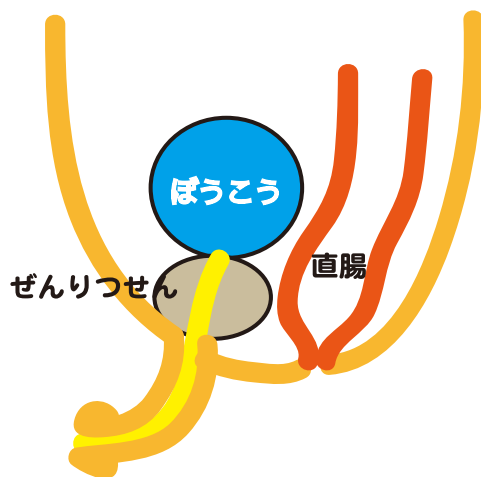


前立腺生検

前立腺とは、男性のみにある臓器で、精液の一部である前立腺液をつくっています。前立腺液には、PSAというタンパク質が含まれています。ごく一部が血液中に取り込まれます。

前立腺がんでは、前立腺の細胞が正常な細胞増殖機能を失い増殖していくことにより発生します。この際に、血液検査でPSAを測定すると、高値になります。一部の前立腺がんでは、PSAが上昇しないことがありますので、直腸診というお尻から指をいれて異常がないか見ます。

前立腺がんは、早期には多くの場合自覚症状がありません。尿が出にくい、トイレの回数が多いなどの症状が出る方もいます。



前立腺肥大症は、この前立腺が50歳くらいから肥大化して、排尿症状がでてきますが、がん細胞があるかは、最終的には生検での診断が重要となります。

局所麻酔(お尻からの麻酔)を行なったのち、通常6-12箇所組織を採取します。採取後、2-3時間安静にさせていただき、痛み・出血・発熱など問題なければ帰宅できます。

診断結果は、病理医による診断の後、再診していただきます。